

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000066		
法人名	医療法人社団 光仁会		
事業所名	グループホームのはら		
所在地	山口県光市中央3丁目2-13		
自己評価作成日	平成25年7月30日	評価結果市町受理日	平成26年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成 25年 8月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣の医療機関が主治医であり医療連携がとりやすい。
食事内容が充実しており、手作りで提供を行っている。
スタッフの年齢が幅広く、各年齢によっての見方の違いにより、バランスの取れた対応ができる。
職員と入居者とがおやつ、食事作りや、手作業、レクリエーションで一人一人の残存能力を活かすことができている。
家族や面会者の出入りが多く、賑やかである。
何事も家族と連絡を取り、支え合いに心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

テレビの好きな番組の視聴やDVDで映画を鑑賞されたり、新聞や本、絵本、雑誌を読まれたり、絵を描かれたり、折り紙やゲーム、お手玉、おやつづくり、グリーンカーテンづくり、花づくり、散歩、買い物、花見、外食、モップ掛け、掃除、テーブル拭き、食器洗いなど利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面をつくられ、日々の暮らしが喜びや張り合いのあるものになるよう支援しておられます。法人の医療機関が協力医療機関であり、利用者のかかりつけ医となっておられ、週3回の往診や必要時、緊急時の受診の支援をしておられる他、法人の看護師が毎日訪問され、利用者の健康管理や相談に対応しておられるなど適切な医療が受けられるように支援されています。重度化や終末期の対応についても、法人の医療機関と連携されて看取りもしておられ、利用者や家族の安心につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し、職員の見えやすい位置に貼ってある。 午後の業務に取り掛かる前に、毎日理念を読み上げ、全員で再確認している。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して、毎日理念を読み上げ、共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリーン作戦や敬老会などの地域事業への参加、校区の小学生の訪問の受け入れ、ボランティアの受け入れを行い交流している。	地域の敬老会の案内が届き、利用者の半数が参加している。年1回、地域のクリーン作戦に利用者も参加している他、保育園の運動会の見学、散歩時や買い物の時に挨拶を交わしたり、楽器演奏や歌、日本舞踊などのボランティアの来訪があり交流している。地域の人から野菜の差入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に訪れる方に対し、相談に乗りアドバイスしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の結果及び評価項目ガイド集を回覧し、外部評価で届いた資料で実施する意義をスタッフで話し合い、理解した。 自己評価の作成の為にスタッフ会議等を行った。	前回の評価結果やガイド集を参考に評価の意義について理解して、職員会議で話し合い、全職員で自己評価に取り組んでいる。外部評価結果を受けて、会議で検討し、目標達成計画にあげ、改善に向けて取り組むように努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議で、状況報告に努め前回の会議のモニタリングを実施し、意見交換に繋げている。 参加者も少しずつ増えており、職員の参加を増やすと共に、会議録を回覧報告し情報を共有している。 参加者は自治会長、消防、地域包括、民生委員、家族で開催している。	2ヶ月に1回、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。事業所の現状や利用者の生活状況報告、活動報告、前回の会議での意見についてその後の取り組みなどを報告し意見交換している。外食の情報を得て活かしたり、職員の名前が分からないとの家族の意見を活かして、事業所だよりで職員を紹介するなどサービス向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括ならびに介護保険課とは必要に応じ連絡を取り合っており、お互いの問題解決に繋げている。 毎回の推進会議には、どなたかが必ず出席している。	市担当課には出向いて、情報交換や相談をして助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターは運営推進会議時に助言を得るなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のスタッフ会議で身体拘束をしないケアの検討を行っている。交通量の多い国道の交差点に位置しているため、安全の為に玄関の施錠を行っているが、家族の同意のもと安全を守る事を目的として取組み、施錠についても毎月の会議で状況の検討を行っている。	年に一度内部研修で学んでいる他、毎月の職員会議で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組むように努めている。事業所は、交通量の多い道路に面しており、利用者の安全を確保するため終日、玄関に施錠している。	・日中の玄関の施錠について検討
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加しており、内部でも研修を行い、虐待防止について学んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から相談があれば対応できる準備はしている(現在は実例なし)。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は家族に対し直接説明を行い、納得の上同意のサインをいただいている。改定時にも書面で説明し、同意のサイン、捺印をいただいている。解約時には情報の提供を行った。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の言葉にはささやかな言葉にも傾聴し苦情に繋げるよう努めている。 家族とも細かに連絡を取り合っており意見要望に答えている。苦情発生時には苦情報告書により職員に周知し、原因を職員全員で共有し、解決策を家族に伝える。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め家族に説明している。面会時や電話、運営推進会議時などに家族からの相談や意見、要望を聞いている。苦情受付箱の設置をしている。家族からの意見は申し送りノートに記録し、職員で共有して。職員の名前がわからないという家族の意見を活かして事業所だよりで紹介するなど反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と共にミーティングや会議を行い、意見や提案を聞いて、代表者に伝え改善に努めている。 代表者は報告に対して対応している。	月1回の職員会議や朝夕の申し送り時に、職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で管理者が聞いている。トイレの掃除方法についての改善や誤薬(配薬ミスなど)を防ぐための服薬管理についての意見を活かして改善するなど反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、職員の意欲に応じ資格取得が出来るよう支援している。取得した資格をいかせるポジションについてもらっている。個人目標設定のスキルアップ評価を行っている。資格手当もある。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に研修を実施し、資質向上の取組みを助けている。法人外での研修にも参加できるよう支援している。6ヶ月毎に自らのスキルアップ評価に取り組んでいる。	外部研修の情報を回覧し、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をしている。月1回(30分)テーマを決めてある法人研修に参加し、職員が交代で資料づくりをして講師を務め学んでいる。内部研修は、ミーティング時に実施し、緊急時の対応についてや業者による指導で、心肺蘇生法やAEDの訓練を実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内ではあるが、他事業所GHと会議に参加しあい、質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の自宅に訪問したり本人に面接を行ったりして、状況状態の把握をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅に訪問した際や来苑時に、家族の思いを聴いている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用以前は訪問面談し、どのサービス利用がよいか適切に対応している。 利用初期には、不安や不満がないか確認を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人をよく観察し、得意な分野を活かしていただき、穏やかに暮らせるよう、出来ることは職員と共に行き、感謝を示しあっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来苑が多く、細かなことでも、家族に状況を伝えている。遠方の場合でも、電話でこまめに連絡している。面会時には家人の思いをよく聞く。できるだけ面会に来ていただけるようお誘いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	期日前投票への支援。 望む場所や、思い出の場所へ出掛けしている。	知人や友人、自宅近所の人、親族などの来訪がある他、暑中見舞状や年賀状を出す支援、行きつけの理容院の利用、家族の協力を得ての外出、外食、外泊、墓参りなど関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うもの同士で、レクに取組み行動を共にするようにしている。あちこちに椅子を置いて、話しやすくしている。職員が間に入り一人一人が孤立しないように声掛けしている。一人で過ごす時間を希望する人は独りで過ごしてもらっている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の介護サービスの提供現場を相談に乗り、関係を維持するよう努めている。退所後もたまに電話をして状況を把握するよう努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話を傾聴し、本人の思いを聞き出している。その事を介護記録に記録し、全員で共有できるよう努めている。それに基づいてケアカンファを行っている。	日々の関わりの中での様子を介護記録の気づき、アイデアの欄に記入するようにして、把握に努めているが、利用者の思いや意向の把握は十分とまでは言えない。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に自宅訪問を2人で行い、本人、家人と面談し、生活環境や暮らしぶりの情報を把握している。フェイスシートにそれを反映している。 利用以前にケアマネがいる場合は連絡をとり、情報を共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子観察して、介護記録や排泄記録表に記録している。 連絡ノートを利用し申し送りを行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、かかりつけ医の意見や要望を聞き、カンファレンスで話し合い、三ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画を作成している。状況に変化があった場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向、医師の意見を参考にしてカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。介護記録に計画の実施状況を記録し、3ヶ月毎にモニタリングを実施している。3ヶ月毎の見直しや、利用者の状態に変化が生じた場合は必要に応じてその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かなことでも、介護記録に記入し、連絡ノートを利用して朝礼及び昼礼で申し送りを行い、職員間で情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリ等医療と連携し柔軟に対応している。 他部所と交流し、クリスマス会、誕生会、ボランティア慰問等の対応をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市川医院への受診 文化センターでの展示物見学 近くの公園への散歩 ボランティアの受け入れ 小学生の慰問受け入れ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する医療機関が、家族の希望するかかりつけ医となっており、適時の報告、連絡を取り、必要時や、緊急時に受診できるよう対応している。	本人や家族の納得を得て、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、週3回の往診や必要時、緊急時の受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。協力医療機関より毎日看護師が訪問し、相談を受けたり助言をしたり、利用者の健康管理をして、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する医療機関と連携しているため、看護師は毎日訪問してくる。利用者の状況や変化は必ず看護師に報告し情報を共有している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対し、入退院時の情報の交換をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応・終末期ケア対応指針を作成し、家族の同意を得ている。かかりつけ医に相談し、家族の意向を聞き、それに沿うように支援している。	指針があり、契約時に家族に説明して同意を得ている。実際に重度化した場合は、かかりつけ医や家族と話し合い、移設や看取りも含めて支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	対応のマニュアルがあり、マニュアルに沿った訓練や応急手当、初期対応の研修を行っている。AEDの設置も行っており、定期的な訓練を行っている。	インシデント、アクシデント報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、申し送り時や会議で検討し、介護計画に反映させるなどして、一人ひとりの事故防止に努めている。誤嚥、骨折、止血、火傷、心肺蘇生、AEDなどの研修や訓練を実施している他、ノロウイルスの発生時に実際に職員が対応して学んでいる。実践力が身につくように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間訓練計画を立てて、消火訓練、停電訓練、避難通報訓練を実施している。 運営推進会議に自治会長や消防署の方に出席いただき、災害対策の話し合いを行っている。 避難通報訓練は、消防署の立会いで行い、隣の商業施設や、自治会長にも参加してもらっており、地域との協力体制も築いている。	年2回、法人全体で火災時夜間を想定した避難訓練を自治会長や隣の商業施設の人の参加を得て実施している。事業所独自で、職員間の緊急連絡網での通報訓練を1回実施している。運営推進会議で防災について話し合っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの方の個性を理解し、意思を尊重して対応している。 利用者との対話時も聞こえる程度の小声で話す。 法人研修へ参加し、全職員の理解へ繋げている。	法人研修で学び、利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応に気づいた時は管理者が注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を始める前に伺い、着る洋服の好みや、食事の形態の好み、レクリエーションの内容の好みなど、自己決定を促している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの基本はあるが、一人一人のペースを大切にして、希望、選択をしてもらったり、様子、様態を見て意思確認を行いながら対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持込に規制をしておらず、好みのおしゃれがしてもらえるようにしている。季節にあった服を着てもらえるように、衣替えを行い、その中から好みの服を着てもらっている。 定期的な理美容の提供を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常では、下膳など出来ることを職員と一緒にして、特別なおやつ作りや、おはぎ作り、恵方巻、お祝膳などは、季節感を感じてもらいながら、出来ることには協力をし、参加していただいている。 一緒に作った物を職員と一緒に食べている。中庭、屋上などの屋外での会食や、外食にも出掛けしている。	食事は法人の厨房からの配食を利用している。利用者は、テーブル拭きや下膳、食器洗いなどできる事を職員と一緒にしている。年2回、弁当を購入して戸外で食事をしたり、年2回、外食に出かけている。おやつづくりは利用者と一緒に行っている。利用者と職員は同じ食卓を囲んで同じものを食べ、会話をしながら、利用者が食事を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作った献立に基づきバランスが取れた食事になっている。摂取量の記録により、食事及び水分の摂取状態を把握している。水分を拒否する方に対しては一回の量を多くせず、こまめに提供するようにしたり、Dr.より指示のある方にはポカリを提供するなど工夫して、水分補給に努めている。毎月体重測定を行い、体重の管理を行っている。咀嚼能力に対応した形態にしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは一日3回実施し、自分で出来る人は声かけし、見守りを行っている。出来ない方は介助している。義歯もきちんとはずし、毎回洗っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため、排泄記録表を利用し、適時声掛けやトイレ誘導をしている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表で排便の管理をし、食物繊維を摂取できるようなメニューの工夫をして便秘を防ぐ。かかりつけ医に定期的に報告し対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間帯は午後と決まっているが順番に決まりは無く一人ひとりのタイミングで入浴を行っている。入浴を好まれない方に対しては、声かけなどを工夫し対応している。	入浴は毎日、14時から17時まで可能で、一人ひとりの体調や希望に合わせて一日おきにはゆっくり入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人にはタイミングや言葉かけを工夫して入浴を支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜良く休んでいただくため日中は活動的になるよう配慮している。一人一人にあわせ、昼寝をする人もいる。夜間入床は個人の生活習慣に従い、行ってもらっている。外出後は身体を休めてもらっている。入浴後は必要に応じて休んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情をファイルして、薬の内容目的を把握している。状態の変化に伴い医療との連携を行っており、薬変更時にはボード記入すると共に、連絡ノート及び申し送りを行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある一日となるように、色々なレクリエーション、体操などを用意して支援している。 洗濯物の片付けや、顔ふきおしぼりの作成をしてもらっている。水やり当番表を作り、トマト、ゴーヤ、あさがおなどの園芸の楽しみにも取り組んでいる。	テレビ視聴（歌番組、NHK、相撲、高校野球など）、DVD視聴（紅白歌合戦、映画「おくりびと」「渡る世間は鬼ばかり」など）、新聞や本、絵本、雑誌を読む、絵を描く、ぬり絵、計算ドリル、カルタ取り、折り紙、しりとり、連想ゲーム、お手玉、玉入れ、テレビ体操、おやつづくり、グリーンカーテンづくり、プランターでの花づくり、外出、モップかけ、掃除、テーブル拭き、食器洗いなど、利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面づくりをし、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では、近くの公園に散歩に誘ったり、苑外の花壇での園芸等の支援をしている。歩行が困難な方も車椅子を使用して外出している。色々な花の観賞やドライブに出掛けたり、家族が行う外出にも柔軟に対応している。	散歩や買い物、花見（梅、桜、紫陽花、菖蒲、バラ、コスモスなど）、ドライブ、外食など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり必要に応じて、お宮やお寺への参拝時にはお賽銭を使用してもらったり、散髪代を払ってもらったりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙は取り次ぐ。 暑中見舞いや年賀状を書き、家族に送る支援をする。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余計な物は置いていないが、季節の花や季節感のある掲示板の飾りなどがある。 適度な音量で音楽を流す。 季節にあった行事を行っている。	共有空間は明るく、テーブルに季節の花を生けたり、壁面に季節に合わせた飾りをして、利用者が季節を感じることができるよう工夫している。隣接する小規模多機能型居宅介護事業所施設との間に、吹き抜けの中庭があり、自然の光が差し込んで明るく、利用者の居場所にもなっている。テレビやテーブル、椅子を配置し、温度、湿度、換気、音などに配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ところどころに椅子があり、利用者同士が談話できるようにしている。 狭いながら、中庭があり天気の良い時はおやつを食べたり、日光浴をする等、中庭の有効利用が来ている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は独自の趣味で飾り、使い慣れた家具などを持ち込むことで安らいでもらっている。	テレビ、タンス、机、椅子、衣類、人形、本など使い慣れたものや好みのもを持ち込んで、家族の写真や自分の作品を飾って居心地よく過ごせる工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで、必要な場所には手すりがあり、居室はのれんで分かりやすくされている。必要に応じて場所が解るようにトイレや居室に貼紙をしている。ホール内には必要最低限の物は置き、危険のないように環境整備を行っている。 TVのスイッチは届く所にあり好きな時に見れるようになっている。掃除用具も所定の場所があり、自由に使えるようにしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームのはら

作成日： 平成 26年 1月 24日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	自24 外 (11)	日々の関わりの中での様子を介護記録の気づき、アイデアの欄に記入するようにして、把握に努めているが、利用者の思いや意向の把握は十分とまでは言えない。	思いや意向の把握を工夫する	日々の生活の記録を具体的に書き充実させる 事例をあげてミーティングで話し合う	3ヶ月
2	自36 外 (16)	運営推進会議で防災について話し合っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	地域との協力体制の構築	避難訓練に地域の方に参加していただく 役割を決める 訓練以外で馴染みになる	6ヶ月
3	自7 外 (6)	交通量の多い国道に面しており、利用者の安全を確保するため終日、玄関に施錠している。	日中の玄関の施錠について検討	少しずつでも開錠できるように時間を限定して 開錠する 毎月ミーティングで話し合う	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。